

1 部

学習サポート

5 / 10～6 / 11の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2013』1部 p. 31～37に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
6月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	5月29日(水)
夏期スクーリングⅠ (6/8～7/7)	申込みハガキ	5月16日(木)
オンデマンド・スクーリング	TFUオンデマンド 上で申込み	5月20日(月)正午ほか 本冊子 p. 44表参照
特講・社会福祉学5・6 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	5月13日(月)
6月在宅web科目修了試験	レポート・ 申込みメール	5月21日(火)正午

	受付日
<p style="text-align: center;">レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	<p>5月21日(火) 5月31日(金) 6月11日(火)</p>

スクーリング受講者専用別レポートは決められた期限までに提出することが必要です。

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締切日	備考
<p>★■社会福祉援助技術演習A・◆演習I スクーリング受講申込 (『With』90号巻末ハガキ または本冊子巻末用紙) + 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)</p>	<p>6～8月受講希望者 →5月31日(金)</p>	<p>(注) 『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「★■演習A」 p. 131～136 「◆演習I」 p. 188～192 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』 p. 32・34</p>

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
<p>■精神保健福祉援助演習 A スクーリング受講申込用紙 (本冊子巻末) + 1 単位めレポート (スクーリング事前レポート)</p>	<p>今年度実習 A 受講 希望者 → 5 月 31 日(金)</p>	<p>『レポート 課題集 2013(社会福祉編)』 「■演習 A」 p. 230~233 「■演習 B」「■指 導 A」 履修者に個 別配付の用 紙参照</p>
<p>■精神保健福祉援助演習 B スクーリング受講申込用紙 (本冊子巻末)</p>		
<p>■精神保健福祉援助実習指導 A スクーリング受講申込用紙 (本冊子巻末)</p>		
<p>◆★精神保健福祉援助実習 課題 1-① (事前課題：実習計画案)</p>	<p>7 / 7 「事前指導」 受講希望者 → 6 月 5 日(水)</p>	<p>(注) 『レポート 課題集 2013(社会福祉編)』 p. 240~250 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』 p. 36</p>

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書（・個人調 査票のコピー）提出	7月実習開始者 →5月15日(水) 8月実習開始者 →6月15日(土)	※事前指導受講済 者のみ対象
障害者教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除届	8/3・4受講免除 希望者 →5月24日(金)	『レポート課題集 2013(心理・教職編)』 p. 245～250
介護実習事前事後指導 スクーリング受講申込み (『レポート課題集2013(心理・ 教職編)』巻末の「 <u>介護実習 登録カード</u> 」を提出)	7/13～15受講希望者 →6月10日(月)	『レポート課題集 2013(心理・教職編)』 p. 157～164

「再提出」の意味

通信教育部副部長・教授 三浦 剛

教員 MESSAGE

はじめに

これから述べることは、一教員としての個人的な見解です。

1. 「再提出」のとらえかた

通信教育部のレポートの評価に「再提出」という項目があります。みなさんはこの項目をどうとらえているでしょうか？あるとき再提出されたレポートに、「先生から『再提出』の烙印を押され目の前が真っ暗になりました」と書かれていたことがありました。烙印ということばの使い方の是非はともかく、評価の欄の「再提出」という項目を、「不合格」ととらえている方もいることに気づかされました。私は「不可」や「不合格」ではなく「再提出」は評価と考えていません。私が講評欄に記入したことを読んで、視点を変えたり調べ直したりして、より理解が進み、自分のことばで身についたことがわかるような良い回答をすること、言い換えれば通学部での「授業」にあたるものと考えています。そうだとすれば、同じ学費で多くの授業を受けられて「得をした」と考える人がいるのではと思っていました。

そう考えているので、私にとっては「可」という評価が一番低いものになっています。「一定の基準には達しているが、このあと何回やりとりしてもこれ以上の理解をしてもらえないな」という評価です。以前、このような話しをしたところ「可でもいいのです。単位を取ることが大切なのですから」という人がいました。

2. 自分への投資

通信教育を受講する方には、資格取得を目的としてそのために修学資金を工面し、資格取得後の就職やキャリアアップに結びつけようと考えている方も多いと思います。そのような場合、単位の修得が目標となり、どのような学修ができたかはどうしても二の次になるのでしょうか。なんとももったいない気がします。投資するのはお金だけではなく、多大な時間も費やしているはずです。もったいないのはその時間です。

また、社会福祉の分野に関して言えば、社会福祉士という資格に求められるものは、社会福祉学という専門の学芸全体のごく一部です。養成施設ではなく大学に入学したのですから、社会福祉学を学ぶ機会をみすみす捨ててしまうのはいかなるものでしょうか。お金も時間も投資すべき目標は資格認定証を得ることではなく、より高い専門性の修得ではないでしょうか。

あるレポートが何回も何回も再提出となり、半分嫌気がさしながらもそれを続けているうちに「勉強するってこういうことだとわかった！」とってくれた人がいました。キャリアアップのために編入学して資格科目の履修をしていた人です。「大学も卒業したけれど、これまで勉強をするうちにだんだん何かができるようになってくるという経験はしたことがなかった。レポートをやりとりするうちに、だんだんわかるようになってくる自分に気づくことができました。」彼は今、初めてわかった勉強することの楽しさを忘れられず、正規職員として働きながら、大学院への進学のための学費の準備をしています。

おわりに

勉強への姿勢、取り組み方は人それぞれあって良いと考えています。た

だ、限りある時間をどれだけ勉強のために使うのか。わかるようになりたい、わかってくることが楽しい、そう思う人と、震災の時、避難所でもレポートを書いてくれたような人とレポートの「やりとり」がしたいと思うのです。

論述式レポートという壁

教員 MESSAGE

准教授 中村 修

はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして進級生の皆さん、これまでの学び、お疲れ様です。『With』の5月号には毎年、福祉心理学科の教員が「心理学とは何か」ということを書いているのですが（新入生の方はぜひバックナンバーを見てください、通信教育部HPの『With』の欄にありますに）、今回私はちょっと趣向を変えて、皆さんの論述式レポートを見る中で、私が感じていることをまとめていきたいと思います。

要約すること、短くすること

通信教育部HPにある『学習の手引き』欄はお読みでしょうか？その中の「論述式レポートに要求されていること」には、以下のような記述があります。

レポートは、テキスト（教科書や参考書）を読んで学んだことを担当教員に報告するものです。まずは課題を理解したうえで、テキストの内容を自分のことばで要約して、論理的にまとめることが必要になります。自分がわかったことを、他の人にもわかるように伝えるつもりで、まとめてみましょう。

十分にテキストを読まないで部分的にテキストを丸写ししたり、ただ自分の実体験や感想をまとめただけのレポートでは、合格点は得られず、不

合格（再提出）となるでしょう。レポートは、自分の主観的な経験や気持ちを綴った日記・エッセイ・感想文とは違い、問いに対してある程度体系立った解答が求められます。

確かにそうです。しかし、レポートを書く上で皆さんがひっかかるのもこの部分なのでしょう。教科書に書かれていることを丸写しにしてももちろんいけないわけですが（丸写しで済む課題が出るはずもありません）、ここで注意しなければいけないのは「要約」ということです。先の引用文をちょっといじってみます。

レポートは、教科書や参考書を読んだことを担当教員に報告するものです。まずは課題を理解し自分のことばでまとめることが必要になります。わかるようにまとめてみましょう。

部分的にテキストを丸写しし、実体験や感想をまとめ、自分の主観的な経験や気持ちを綴った日記・エッセイ・感想文としてある程度体系立った解答が求められます。

「要約をすること」と「もととなる文章を単純に短くすること」は異なります。いじった方の文章は、元の文章にあった要素だけで構成されています。しかし、内容は大きく違うものになってしまっていますね（特に後半はまったく逆です）。ここまで極端に内容が違ってしまふ「短縮」は問題外ですが、「教科書の記述を、一部を削除して残すところは残し、短くすること」が「要約」とはならないということに注意してもらいたいと思います。教科書の記述をまるでパッチワークのように切り貼りすることで、「主語と述語、書き出しと終わり等が対応しない不思議な日本語の文章」となっているレポートも多いことは確かなのです。

部分的に写すことと引用すること

「部分的に丸写し」という点にも注意が必要です。レポートを書く上で、どうしても教科書の記述・説明をそのまま用いて自分のレポートに活かしたいという場合もあるでしょう。ただ、その際には、「引用」のルールをきちんと守らなくてははいけません。通信教育部HP「著作権と出典明示」では、次の3点が冒頭に挙げられています。

- ・教科書や他の本に書かれていることを引用した部分は、自分なりに要約した部分や、自分の意見を述べた部分と明確に区別しなければいけない。
- ・そのため、引用した部分については、「」でくくる。どこから引用したのかを、著者名『書名』出版社名をあげるなどして明示する。
- ・引用は必要最小限にする。多くても全体の3分の1以内（2,000字のレポートの場合600字）におさめる。

つまり、「部分的な丸写し」は「引用」のルールを踏まえて行われているならば（多発されない限り）問題ない、ということになります。逆にいえば、問題となる「部分的な丸写し」とは、

- ①引用のルールを守らず、まるで自分の考え出した文章のように（教科書を含めた）文献の記述をそのまま用いた「一部分まるごとの丸写し」
- ②先に例示した「おかしな要約」のように、文献の記述・表現をパッチワークのように張り合わせた「部分的に残して部分的にカットした丸写し」という2点にまとめられるでしょう。なお、具体的な引用のルールについては先のHP等によく確認してください。

おわりに

この原稿は、通信教育部HPに記載されていることを「引用」し、私なりに「要約」しながら書いてみました。「自分のことばで要約」というハードルは決して低くはなく、「壁」といっていいかもしれません。しかし、「本を読みました」「本にはこう書いてありました」という報告だけでなく「自分なりにまとめてみました」という部分を書く、その部分こそがあなたの「理解」を示すものになります。そして私たちが見たいのはあなたの「理解」です。それに対して我々教員から「まとめ方に難がある」等の（厳しい）コメントがなされ、落ち込むこともあるかもしれませんが、それは「自分なり」を作ったからこそ指摘されることです。壁を打ち破るためには、何度も挑戦し、その中で上手くなっていくしかないと考えています。どんどんレポートを出してください。お待ちしております。

引用：

以下全て東北福祉大学通信教育部HP内「学習の手引き」より

「レポート学習 II レポートをまとめる 1 論述式レポートに要求されていること」

<http://www.tfu.ac.jp/tushin/tebiki12/06/02/index.html>

「レポート学習 II レポートをまとめる 3 著作権と出典明示」

<http://www.tfu.ac.jp/tushin/tebiki12/06/02/03.html>